

# 栃木言友会会報

交流会報告 No. 200

2019年10月1日

発行責任者：古川 元一

編集責任者：古川 元一

TEL:090-3138-1507

## 【目次】

表紙	「吃音講座」 古川 元一 P 1
巻頭言	S言友会 AHP 2
吃音講座報告	栃木言友会の皆さん P 3~7
次回交流会案内	GFP 8



この栃木言友会会報は、赤い羽根共同募金会の助成金により発行しています。

栃木言友会は皆さんが自主的に主体的、

楽しく活動できるセルフ・ヘルプ・グループです

# 巻頭言

## 人は変わる

S言友会 A H

こんにちは。吃音を持っていても、人はある程度変わることができるのか。私なりの考えを述べたいと思います。

昨年の9月のT大会でKGのSHさんが講演をされました。ご存じの方も多いかと思いますが、杉尾さんは吃音者です。しかし、そんな雰囲気や微塵も感じさせず、彼はとても堂々としていました。

声量もあり、身振り手振りを交えて、聴衆を引き込む姿に私は圧倒されました。音読などを相当努力されてきたことがよく分かります。このときの体験は私にとって財産になったと思います。

また、最近Yで話題になっているMリストのDのエピソードについて書きたいと思います。

彼は小中学生の頃、同級生から酷いいじめを受けていましたが、あるとき、彼は母親の悪口を言われたことで、工作室にあった鉈をいじめっ子に投げつけて反撃をしたそうです。怪我人は出なかったようですが。

すると周りの反応が変わり、彼はいじめられなくなりました。自分には自分自身と自分をとりまく環境を変える力があるのか。そう感じた彼は今の自分から脱却するために、髪型や服装や体形や学力など、あらゆる自分の特徴を変えていったのです。

私はこれらの体験やエピソードに強く影響され、自分の気持ちや行動次第でいくらかでも良くすることはできるはずだと思うようになりました。

自分が少しでも良い人生が送れるように毎日少しずつ、ゆっくりでもいいので、小さな努力をして、続けていきたいと思います。



## 「吃音講座」開催される

古川 元一

9月22日(日)、14時からとちぎ福祉プラザ2階 第1研修室で「吃音の基礎的知識—客観的に見た吃音—」と題して、G T士の資格を持たれている、S Kさんに講演して頂きました。

吃音への不安・悩みからお話をされ、世界中で吃音と共に生きる偉大な人の紹介。吃音の種類や症状も詳しく紹介して下さっております。

症状で適応性のところでは、同じ文を繰り返すことで吃音頻度が減少する項目では興味があり、自分の吃音軽減はここから来ているかもしれない。吃音問題を表す表では氷山のイラストやC A L M Sの図示をわかり易く話されております。

過去の吃音理論や診断起因説の弊害では初めて聴く内容もあります。誤った認識、対処方法の中には親の愛情不足、育て方が悪い、吃音を意識させないなど、今は否定されているとのことでした。

正当な非流暢性と吃音の流暢性は多くの事例を紹介して下さいました。吃音と脳についても話して下さい、前頭葉は運動に関する多いことも驚きです。現在の吃音治療の考え方では、流暢性形成法は栃木言友会でTさんが講師として実施している吃音改善研究会で吃音緩和法はHカウンセリングが該当するようです。

吃音の基礎知識と吃音に関する多くの症状の紹介、また最近の吃音研究の紹介など多岐にわたり話して下さい、お忙しい中講座の資料を作ってくださいT都から栃木県まで移動して頂いての講演に感謝します。

また、講演終了後もたくさんの質問に丁寧にお答えくださりありがとうございました。今回の講座開催にあたり、S新聞社K文化様の案内掲載とKさんが担当して下さっておられる栃木言友会ホームページにも講座の案内を掲載して頂いた事で一般の方が3名参加して下さい、大変うれしかったです。栃木言友会会員さんは9名の参加でした。関係者の皆様のご支援に感謝します。

# 吃音講座報告

日時：令和元年9月22日(日)

場所：とちぎ福祉プラザ 第一研修室

時間：14:10～16:30

吃音講座担当：S

進行：古川(元)

参加者：一般3名、S、T、G、S、K、FK、H、古川、F

(敬称略) 合計12名

吃音講座の参加者の感想を掲載させていただきます(感想は到着順です)

## HM

今回、吃音講座を受けるという貴重な機会を頂きありがとうございました。

新発田さんの講話は、柔らかい語り口調で大変聞きやすく、最近の研究やこれまでの古い説の誤りなどについても説明があり、とても興味深く面白かったです。

いろいろな事柄が心に残りました。吃音の症状が進むと最終段階として、ドモリながらも周囲を気にせず話す段階に進むということ、どもってはいけないと思うからどもること、脳神経が成長しきってしまった大人は、その回路を上手に使えるように訓練してはいかないことなど多くの事柄が印象に残り、明日からの生活頑張っていこうと元気をもらえました。

## FK

9月22日(日) Sさんが講師をして下さった吃音講座に参加しました。

吃音の種類や症状、脳と言語の関係など興味深いお話が沢山ありました。

資料や具体的な例を挙げて分かりやすく説明して頂き、吃音の改善には周囲の理解など環境調整も必要である事がよく分かり実践して行きたいと思いました。

「どもる」から困るのではない。「どもってはいけない」から困るのだ。資料にあったこの言葉はとても印象に残りました。

栃木言友会の吃音改善研究会や交流会で行なっている沢山の事が吃音改善に役立っている事に改めて有り難く思いました。

質疑応答ではSさんが質問に丁寧に答えて下さり沢山の話を聞いて良かったです。私は発言に躊躇しているうちに時間切れになってしまったので、次は積極的に手を挙げようと思います。

本日の吃音講座を開催して頂きSさん、皆さまありがとうございました。

## 古川 元一

2017年5月に言友会 関東ブロック大会を栃木言友会主催で開催し、2年後の今年はずどの行事を考えなければならないのですが、体力に自信がなくSさんに栃木言友会会員向けに吃音講座を提案させて頂いたら快く引き受けて下さいました。

1月に打ち合わせをさせて貰い、講演の時間は50分。その後質疑応答の企画をしました。9月22日(日)、とちぎ福祉プラザ2階 第1研修室でSさんの講演を実施。配布された資料は、とても立派な文献になっております。

今回スタッフは講演を下さったSさん、受付のFと司会進行の古川で何とか進めることができました。講演の講話を聴かせてもらい、今回だけで終わってしまうのはもったいなさと思い、来年もう一度、講座を企画できないかと模索し始めております。

体力の心配がありますが時間をかけて考えていきたいです。

## G F

Gです。AとSツリーの中間に住んでいます。

本日は素晴らしい講演ありがとうございました。

準備に長い期間を費やしたと思います。パワーポイントを利用してわかりやすく、丁寧に説明されて、吃音に対する最近の考え方、問題点がよくわかりました。他の研究発表会でも十分に通用する素晴らしい内容だと思います。

残念ながら、今のところ、吃音は明確な原因、治療方法は確立されていないようです。言友会のような自助グループで吃音者同士が自分の悩みを出し合い、自分たちで考えて治療法を検討し実践する。そして、その結果を広く社会に発信することが大事なことはないかと思えます。

最後に、今回のSさんの講演が単に栃木だけに留まらず、言友会全体。さらに、広く社会の吃音に関心がある団体等に働きかけ、多くの人が吃音を正しく理解する一助となることを祈っています。本日は誠にありがとうございました。

## S K

今回は「吃音講座」を担当させていただきました。言友会の方が主な対象でしたので、古川会長ともご相談し、内容は吃音軽減や対処法よりも過去の吃音研究から現在主流となっている吃音の捉え方についてお話することにしました。

「50分程度で」とのご依頼でしたが、私は10分にも満たない学会発表を数回したことがあるくらいです。そんな長い時間お話できるだろうかと最初は不安でしたが、資料を作り始めると盛り込みたい内容が増えてしまい、予定の時間に対して内容が多くなってしまいました。思えば吃音の勉強を始めたのが2012年、翌年にはKで第1回目のK・R性S学会があり、栃木言友会に初めて参加したのもこのころだったと思います。

今回の講座は私が7年間で得た知識の総決算のような内容になりました。

当日はやはり内容を詰め込みすぎてしまい、予定時間を10分程度オーバーしてしまいました。一部を省略してお話ししたものの、最後の方は駆け足で分かりにくい部分もあったと思います。そんな中でも多くの質問をいただき、熱心に聞いてくださったみなさまに感謝いたします。

なお、資料の多くはK大学病院 KY先生の著書「Eに基づいたK支援入門」(G社 2012)から引用しています。専門的な知識がなくとも読みやすい内容で、根拠に基づいた吃音の症状・対応方法が書かれていますので機会があれば手に取ってみてください。

最後になりますが、発表の機会を与えてくださった古川会長、資料の準備や当日の会場準備をくださった事務局のみなさまに感謝申し上げます。

## S S

Sさんの吃音講座は、吃音研究のEを、昔から最新の情報まで、分かりやすくまとめてくださり、有難いと思いました。

私がKのK担当なりたての時、先輩のSが「とってもいいから読むといい。」と勧められたB・Rさんの研究も、ポイントを教えていただきました。読みたい・学びたいと思いながら、まだ一度も読んだことがなかったのです。確か絶版だったはず。また、講師の先生ご自身の吃音を持つことでの困り感も話してくださったので、そういう不便さ・悔しさが、「K」を書かれたS先生と同じようにあるのだなと、わかりました。

また、この度、Hの視点から見た場合、H性吃音と、そうでない吃音と、大きく二つのグループに分けられるとも学ばせていただきました。

私は、吃音になりやすい性質は自分の脳の中にあると思いますが、H性吃音にはなりません。脳内のセロトニンが相当減少していた時に、千人以上の先生方のいる会場で、拳手をし質問をした時に、初めて、ノドの奥がキューツと締め付けられたように硬くなって、第一音が出てこない難発になったことがあるのを、覚えています。

## K M

9月22日吃音講座を聞きました。Sさんの発表に興味があり久々に栃木に来ました。Sさん自身が吃音を持たれていることもあり、共感できることがたくさんありました。

Y家の話は全く同じでした。数十年前のY家はメニューがGしかなく、並か大盛しか選択肢がなくどちらも言いづらく辛かったことが思い出されました。Y家のG井好きだったので、行くのをためらっていました。

社交F障害という言葉は初めて聞きましたが私自身が当てはまっていると感じました。会社でも人と接する機会を出来るだけ避けています。

私は仕事上喋る機会が多いのですが、喋れる時と喋らない時の波が多く困っています。栃木を離れてから症状が重くなっています。特にD会議などで発言しなくてはいけない時に言葉が出ずそのまま話す機会を逃してしまうようなことがあります。

発表の中であった変動性というのを少なくする方法がないものかと思ってしまう。今までいろいろ吃音についての発表を聞いてきましたが、一番わかりやすかったのではないかと思うほどわかりやすくよかったです。

## T T

### 「Sさんの吃音講座を拝聴させて頂いて」

当日用事が長引いて、途中から参加し、資料を読ませて頂きました。

帰宅してから改めて配布して頂いた資料に目を通しますと、吃音に関する古今東西のいろいろな情報が、網羅されていました。

わかっていそうでわからなかった現在の吃音治療の考え方、吃音周辺の状況なども詳しく紹介されており、しばらく熟読するに値すると思いました。

職場では吃音治療はしてないとお聞きしましたが、これだけの内容を集められたSさんに感謝と敬意をお示ししたいと思います。大変ありがとうございました。

## F T

吃音講座では、皆様とためになるお話を聴けて、参加して本当に良かったです。

13名の参加者（一般3名、会員9名）が居られ、思ったよりも多くて、事務局として感謝感激の気持ちです。私は吃音講座の準備でお茶、お菓子を準備しました。

14時10分から始まり、講演中何故か音声にドンドンと床を叩くような音が入るのです。受付に電話し音声の様子を見て貰うと、T障害者用の音声が入っていたようで直してもらい、事なきを得ました。

Sさんの講演の中で印象的だった事。吃音と併発する社交F障害と障害者Tについてです。社交F障害は吃音者の40%に起きるとの事で、自分に当てはまるのではと自分の実態が明らかになり、これだったのか…！と驚きました。今は社交F障害を治せるよう行動し始めている所です。

障害者Tについても家族以外と話せない場合はS障害者X級に該当するそうです。私はFH手帳を受けておりますが、将来的には身体Sの方で吃音症には該当してほしいと願っています。自分では精神面はそれ程病んではないと思っています。

仕事の都合で3時迄で帰られた一般の方が、帰り際に講演の資料をもう一部くださいと言ってくくださったのでお渡ししました。

# 次回交流会は10月20日(日) 14時00分より交流会を開催します 会場はとちぎ福祉プラザ会議室です

10月はFKさんが担当です。ご期待ください。

近況、交流会内容、感想も当日、またはメール（郵送）で、交流会終了後、3日以内に頂ける様ご協力よろしくお願ひします。

栃木言友会会費納入先、お近くの郵便局から

**郵便局口座番号 00190-1-760304 口座名称 栃木言友**

11月24日(第4日曜日 402会議室) 12月22日(第4日曜日 403会議室)

## 次回交流会のお知らせ

日時・開催場所：10月20日（日）とちぎ福祉プラザ 201会議室  
14時00分～16時30分 栃木言友会交流会  
〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 TEL028-621-2940  
1階の案内は栃木言友会交流会になっています

交流会内容：近況報告 「消費税の増税で変化した事」

交流会Ⅰ：「吃音改善研究会」

担当：T

交流会Ⅱ：「吃音かるた」

担当：FK

連絡先 〒329-4425 栃木県栃木市大平町新 1385-33 古川元一

携帯 090-3138-1507 E-mail:genyut@mocha.ocn.ne.jp

栃木言友会ホームページ <http://tochigi.sakkt.net/index.html>